

## 5 家庭でしか話さない〔場面緘黙〕E女(4年生)

### 学習・行動上の特徴

知的な面での遅れはない。

家庭では家族と普通に話することができるが、学校では、ことばの教室を除いては全く口をきかない。（口数が2年生より減り3年生から）先生や友達とは、指のサインでのコミュニケーション状態である。

国語の漢字定着度85～90%、作文は最後まで書け、文字の間違ひは見られない。

算数の知識・理解や表現・処理は50%。コンパスや定規を使ったりすることや数学的思考に弱さがみられる。

運動技能面での遅れがある。授業での表現活動にはほとんど参加しないが、絵を描くことは好き。エレクトーンが得意。

### 特徴の考察

言語表現は、自分の意志や感情を、誰かに伝えたいという意志や欲求があること、さらには、それらを伝えたい相手との安定した情緒的社会的な関係をもっていることが前提となる。本児の場合、場面緘黙<sup>1,2</sup>への指導に加えて、生育歴からも明らかになった家族の課題をも合わせて環境面での改善が必要である。安定した情緒的関係や社会性を養う必要がある。

空間認知<sup>1,3</sup>や目と手の協応に困難があると考えられる。

### 援助・指導の方針

本児には、場面緘黙があり、また非言語性のLDも疑われる。

生育歴の中からは、母子関係において十分な情緒の絆が結べなかったことが明らかであり、社会性の広がりが見られない一因となっていると考えられる。また、これまでの相談から支配的な祖父と母親の関係など、母親自身の抑鬱状態を含めて、家族の問題が明らかになってきている。母子両方へのカウンセリングから情緒の安定を図りたい。

社会性や運動技能の遅れのみられる本児に対しては、心身の緊張を和らげ、より活発な自己表現をうながすよう、本人の得意な絵画活動を中心にした内容を組み立てて活動を行う。

もう一人の児童とのロールプレイなどで、他者との関係でどう動けばよいかを考えさせる場面を設定し、繰り返し経験させることで自信をもたせる。

### 留意点

本児が好きな絵画やできたことを褒め、自信や意欲をもたせるよう配慮したい。

算数や体育などで、本児に拒否や抵抗のある場合には、無理をさせない。

学級担任とも連携し、係活動や班活動を通して対人関係が広がるように、学級内での雰囲気にも配慮したい。また学校と家庭が連携しあって、褒めたり認める場面を増やすことによって、本児の積極性を引き出せるようにしたい。

## 援助・指導例

(指導担当) 通級指導教室担当

(指導形態) 小集団指導〔他の緘黙児と2名〕 週1回

ア ねらい

心身の緊張を和らげ、活発な自己表現活動をうながす。

「話す」意欲や態度を育てる。

イ 内容

### 描画活動

本児が絵に対して興味を示すことを生かし、課題画・自由画・フィンガーペインティング・続き絵(巻物風)などに取り組む。生活場面や物語などを好んで描く。〔右図〕

### 音楽活動

器楽を中心にして、曲作り・ダンスなど。主に担当が演奏するメロディに、ギターやオルガンなどで参加して、わざとメロディをはずしたりリズムを変えて合奏を楽しむことが多い。本児たちは、「曲壊し」と名付けている。

### ごっこ遊び

【追いかけごっこ・プロレスごっこ・忍者ごっこ・トランポリンごっこ・縄跳びなど】体をリラックスさせて動かす。

### 工作 【ビーズを使った作品作り】

ロールプレイ 対人関係のとり方を体験的に理解させる。

### 母親との教育相談



本児の描いた家族の絵

ウ 指導の流れ(例)

- (1) はじめのお話 (2) トランポリン跳び (3) 身体を使った遊び
- (4) 今日の課題(上記内容の ~ より) (5) 終わりのお話

## 指導後の変化及び考察

ア 変化

通級指導教室では、他の緘黙児や担当者と、音声言語によるコミュニケーションがとれるようになり、体を使った遊びが次第にリラックスしてできるようになってきた。在籍学級でも、特定の児童とではあるが、かわりかかっているように、笑顔も見られるようになってきている。また授業での発表の際には、言葉にはならないが、友達と一緒に教室の前に出られるようになった。担任とも、文章や絵で少しずつ交流ができはじめている。

イ 課題

大きな変化が見られるようになったが、まだ限られた範囲でしか話すことができていないので、今後も援助を必要としている。また算数や体育面などへの援助も課題である。